

### 1.5 写像としての行列

ここでは行列を写像とみて第 - 1 章第 2 節との関連を考える。  
 $(m, n)$  形行列  $A$  に対して定義される写像

$$(1.17) \quad \begin{array}{ccc} \mathbb{C}^n & \rightarrow & \mathbb{C}^m \\ \Psi & & \Psi \quad (f_A(\mathbf{x}) = A\mathbf{x}) \\ \mathbf{x} & \mapsto & A\mathbf{x} \end{array}$$

は次の性質をみたす；

$$\begin{aligned} f_A(\mathbf{x} + \mathbf{x}') &= f_A(\mathbf{x}) + f_A(\mathbf{x}') \quad , \quad \mathbf{x}, \mathbf{x}' \in \mathbb{C}^n \\ f_A(\alpha\mathbf{x}) &= \alpha f_A(\mathbf{x}) \quad , \quad \alpha \in \mathbb{C}, \mathbf{x} \in \mathbb{C}^n \end{aligned}$$

実際、(1.12) より  $f_A(\mathbf{x} + \mathbf{x}') = A(\mathbf{x} + \mathbf{x}') = A\mathbf{x} + A\mathbf{x}' = f_A(\mathbf{x}) + f_A(\mathbf{x}')$  となり、(1.13) より  $f_A(\alpha\mathbf{x}) = A(\alpha\mathbf{x}) = \alpha(A\mathbf{x}) = \alpha f_A(\mathbf{x})$  となる。

この性質を抽象して線形写像という概念を導入する：

定義 写像  $f : \mathbb{C}^n \rightarrow \mathbb{C}^m$  が線形であるとは

$$\begin{aligned} f(\mathbf{x} + \mathbf{x}') &= f(\mathbf{x}) + f(\mathbf{x}') \quad , \quad \mathbf{x}, \mathbf{x}' \in \mathbb{C}^n \\ f(\alpha\mathbf{x}) &= \alpha f(\mathbf{x}) \quad , \quad \alpha \in \mathbb{C}, \mathbf{x} \in \mathbb{C}^n \end{aligned}$$

が成り立つときをいう。

補題 1.5 (i) 任意の線形写像  $f : \mathbb{C}^n \rightarrow \mathbb{C}^m$  に対して  $f = f_A$  となるような  $(m, n)$  形行列  $A$  が唯一ひとつ存在する。

(ii)  $A$  を  $(l, m)$  形行列、 $B$  を  $(m, n)$  形行列とすれば、線形写像  $f_B : \mathbb{C}^n \rightarrow \mathbb{C}^m$ ,  $f_A : \mathbb{C}^m \rightarrow \mathbb{C}^l$  が定義される。このとき  $f_{AB} = f_A \circ f_B$  が成り立つ。

(iii) 正方行列  $A$  に対して「 $A$  は正則  $\Leftrightarrow f_A$  は全単射」である。このとき  $(f_A)^{-1} = f_{A^{-1}}$  となる。

証明 (i)  $\mathbf{e}_i = \begin{bmatrix} 0 \\ \vdots \\ 1 \\ \vdots \\ 0 \end{bmatrix}$  第  $i$  行 ;  $\mathbf{e}_i \in \mathbb{C}^n$  に対し  $f(\mathbf{e}_i) = \mathbf{a}_i \in$

$\mathbb{C}^m (1 \leq i \leq n)$  とおき、 $A = [ \mathbf{a}_1 \ \cdots \ \mathbf{a}_n ] \in M(m, n; \mathbb{C})$  とすれば  $A\mathbf{e}_i = [ \mathbf{a}_1 \ \cdots \ \mathbf{a}_m ] \mathbf{e}_i = \mathbf{a}_i$  より  $f_A = f$  となる。

(ii) (1.9) より  $(f_A \circ f_B)(\mathbf{x}) = f_A(f_B(\mathbf{x})) = f_A(B\mathbf{x}) = A(B\mathbf{x}) = (AB)\mathbf{x} = f_{AB}(\mathbf{x})$  となる。

(iii)  $\Rightarrow$  :  $A^{-1}A = E = AA^{-1}$ ,  $f_E = id$  及び (ii) より  $f_{A^{-1}} \circ f_A = f_{A^{-1}A} = id = f_{AA^{-1}} = f_A \circ f_{A^{-1}}$  となる。よって  $f_A$  は全単射となる。

$\Leftarrow$  : (i) より  $(f_A)^{-1} = f_B$  とおける。このとき  $f_B \circ f_A = id = f_A \circ f_B$  。 (ii) より  $BA = E = AB$  となるから  $A$  は正則である。

証明終

(i) より  $A$  と  $f_A$  を同一視し得る。即ち行列

$$A = \begin{bmatrix} a_{11} & \cdots & a_{1n} \\ \vdots & & \vdots \\ a_{m1} & \cdots & a_{mn} \end{bmatrix} \in M(m, n; \mathbb{C}) \text{ を写像}$$

$$(1.17)' \quad \begin{array}{c} \mathbb{C}^n \\ \cup \\ \begin{bmatrix} x_1 \\ \vdots \\ x_n \end{bmatrix} \end{array} \rightarrow \begin{array}{c} \mathbb{C}^m \\ \cup \\ \begin{bmatrix} a_{11}x_1 + \cdots + a_{1n}x_n \\ \vdots \\ a_{m1}x_1 + \cdots + a_{mn}x_n \end{bmatrix} \end{array}$$

を表す記号と考える。このとき零行列は値 0 の定値写像（例-1.1）となり単位行列は恒等写像（例-1.2）となる。

例 (2, 2) 形行列  $\begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix}$  は写像

$$\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} \mapsto \begin{bmatrix} ax + by \\ cx + dy \end{bmatrix}$$

を表す。

この同一視のもと、補題 1.5 は次のようにいいかえられる。

補題 1.5' (i) 行列とは線形写像のことである。

(ii) 行列の積とは線形写像の合成のことである。

(iii) 正方行列に対しては、行列の正則性と線形写像が全単射となることは同値である。このとき逆行列とは逆写像のことである。

比例の一般化 (1.17) において  $y = f_A(x) = Ax \in \mathbb{C}^m$  とおけば

$$\begin{bmatrix} y_1 \\ \vdots \\ y_m \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} a_{11} & \cdots & a_{1n} \\ \vdots & & \vdots \\ a_{m1} & \cdots & a_{mn} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_1 \\ \vdots \\ x_n \end{bmatrix}$$

即ち

$$(1.17)'' \quad \begin{cases} y_1 = a_{11}x_1 + \cdots + a_{1n}x_n \\ \cdots \cdots \cdots \cdots \cdots \cdots \cdots \cdots \cdots \cdots \\ y_m = a_{m1}x_1 + \cdots + a_{mn}x_n \end{cases}$$

となる。ここで  $m = n = 1$  とおくと  $y_1 = a_{11}x_1$  と書ける。これは複素数の正比例である（記号は異なるが例 0.1 を参照のこと。実数の場合は例-1.3 をみよ）。従って次のようにも考えられる。

線形写像とは正比例の一般化であり、行列とは比例実数の一般化で

ある；

$y = ax$  において  $x, y \in \mathbb{C}$  を  $\mathbf{x} \in \mathbb{C}^n, \mathbf{y} \in \mathbb{C}^m$  に一般化すると、

$a \in \mathbb{C}$  は  $A \in M(m, n; \mathbb{C})$  に一般化されて  $\mathbf{y} = A\mathbf{x}$  となる。

このことは  $\mathbb{C}$  を  $\mathbb{R}$  にかえても成り立つ。同様に補題 1.5 も  $\mathbb{C}$  を  $\mathbb{R}$  にかえて成立する。特に (実) 線形写像  $f: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^m$  と  $A \in M(m, n; \mathbb{R})$  とは同一視してよい。

複素数平面と実 (2, 2) 行列 ここでは  $\mathbb{C} = \mathbb{R}^2$  として  $m = n = 2$  の場合を考える。

例 写像 :  $\begin{array}{ccc} \mathbb{C} & \rightarrow & \mathbb{C} \\ \Downarrow & & \Downarrow \\ \alpha & \mapsto & \bar{\alpha} \end{array}$  は  $\begin{array}{ccc} \mathbb{R}^2 & \rightarrow & \mathbb{R}^2 \\ \Downarrow & & \Downarrow \\ \begin{bmatrix} a \\ b \end{bmatrix} & \mapsto & \begin{bmatrix} a \\ -b \end{bmatrix} \end{array}$  と表せた。

$\begin{bmatrix} a \\ -b \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} a \\ b \end{bmatrix}$  であるから、線形写像  $\alpha \mapsto \bar{\alpha}$  は行列  $\begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{bmatrix}$  で表される。同様に写像  $\alpha \mapsto -\bar{\alpha}$  は行列  $\begin{bmatrix} -1 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}$  で表され、写像  $\alpha \mapsto i\bar{\alpha}$  は行列  $\begin{bmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{bmatrix}$  で表される。原点に関する対称移動  $\alpha \mapsto -\alpha$  はもちろん行列  $\begin{bmatrix} -1 & 0 \\ 0 & -1 \end{bmatrix}$  で表される。

例 1.10 例 0.1 で扱った写像  $f_\alpha: \mathbb{C} \rightarrow \mathbb{C}$  を行列で表す。  $w = \alpha z = f_\alpha(z)$  とおいて  $\alpha = a + ib, z = x + iy, w = u + iv$  を代入すると、 $u + iv = (a + ib)(x + iy) = (ax - by) + i(bx + ay)$  となる。よって

$$\begin{cases} u = ax - by \\ v = bx + ay \end{cases} \quad \text{即ち} \quad \begin{bmatrix} u \\ v \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} a & -b \\ b & a \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$$

となる。従って求める行列は  $\begin{bmatrix} a & -b \\ b & a \end{bmatrix}$  である。

複素数の比例  $w = \alpha z$  において  $\mathbb{C}$  を  $\mathbb{R}^2$  に同一視するとき、比例定数  $\alpha = a + ib \in \mathbb{C}$  は  $\begin{bmatrix} a & -b \\ b & a \end{bmatrix} \in M(2; \mathbb{R})$  と同一視される。一方極形式により  $\alpha = r(\cos \theta + i \sin \theta)$  と表せば  $\begin{bmatrix} a & -b \\ b & a \end{bmatrix} = r \begin{bmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{bmatrix}$  と書けるから 例 0.1 より

(1.18)

行列  $\begin{bmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{bmatrix}$  は平面  $\mathbb{R}^2$  において  $\theta$  回転させる写像を表す

ことがわかる。

問題 写像 :  $\begin{array}{ccc} \mathbb{C} & \rightarrow & M(2; \mathbb{R}) \\ \cup & & \cup \\ a + bi & \mapsto & \begin{bmatrix} a & -b \\ b & a \end{bmatrix} \end{array}$  は単射かつ和と積を保つこ  
 と、即ち … を示せ。